

「計画」

比叡平小学校

令和8年度 我が校の学力向上策

【県目標】第Ⅲ期学力向上滋養プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学力を高める。

【令和8年度取組の重点】子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

○よく学び、心豊かにたくましく活動する子ども

【現状と課題】

○視点1

(1) 昨年度の校内研究のふりかえりや日頃の学習の様子から、児童同士が協同的対話を実践する姿が見られるようになったが、一方的な発表に留まっており、個々の児童の思考が深まるところまで至っていない。

(2) 1人1台端末として、タブレットを活用したスピーチ学習に取り組んでいる。自分の思いや考えを表現しづらい児童も積極的に伝えることができるようになってきている。

○視点2 与えられた課題に積極的に取り組むが、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、他者と協同的に問題を解決していく力はやや弱い。

○視点3 学級担任8名のうち4名が経験年数7年未満のため、同僚性を高めることで更なる指導力の向上を図る必要がある。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①児童の読解力・表現力向上を目指し、日常的に新聞記事の要約や読解問題、短作文づくりに取り組むことで、「協同的な学び」の学習形態を定着させる。	①「学びの基礎チャレンジ」の国語科「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3項目全てで、県内平均を上回る。
②全校でタブレットを活用したスピーチ学習に取り組むことで互いを尊重し合い、より良い学級集団を作る。	①児童アンケート「学習中に友だちと考えを聴き合う活動を通して、考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上。
	②児童アンケート「わたしはいじめなどの問題がなく、安心して学校生活を送っている。」に対する肯定的な回答の割合が90%以上。

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①校内研究テーマを「つながり学び合う国語科授業の追求～聴き合い、思考を深める児童の育成を目指して～」とし、対話をつなぐことで学びを深め、「協同的な学び」の定着に取り組んでいく。	①児童アンケート「自分が考えたことや感じたことを、積極的に周りの人に伝えていますか。」に対する肯定的な回答の割合が90%以上。
	①児童アンケート「学習中に友だちと考えを聴き合う活動を通して、考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上。
	①児童アンケート「わからないことや疑問に思うことは、そのままにしないで訊いて（たずねて）いますか。」に対する肯定的な回答の割合が90%以上

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①授業力向上のため、研究授業にかかわる教材の研究を年4回行う。	①教職員アンケート「教材研究は、あなたの授業力向上に役立っていると思いますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上。
②教員同士で教え合う校内ミニ研修会やOJTを計画的に行う。（月1回）	②教職員アンケート「校内ミニ研修会は、あなたの授業力向上に役立っていると思いますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上。

◇「学力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

◇「学力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・4月の校内研究全体会で、校内研究主任が研究テーマ「つながり学び合う国語科授業の追求～聴き合い、思考を深める児童の育成を目指して～」について具体的な取組内容を説明し、教職員全体で共通理解を図る。
- ・6月中旬より全学年による研究授業（授業公開および研究協議会）をスタートさせる。研究協議会では、公開した授業について、協同的な学びが行われていたか、教師の手立ては適切であったか等を検証するとともに、改善点について話し合う。
- ・各学年の授業公開および研究協議会に先進校の研究実践牽引者を3回招いて、指導・助言を受ける。